［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年 5月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1870101167
法人名	財団法人　松原病院
事業所名	グループホームのどか
所在地	〒910-0017　福井市文京2丁目6－10 （電　話）0776-28-7252

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041　大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年4月17日	評価確定日	平成21年5月26日

【情報提供票より】（平成　21　年　3　月　10　日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　16　年　4　月　1　日	
ユニット数	1	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤 2 人，非常勤 7 人，常勤換算 8.5 人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	3 階建ての　2 階 ～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	1,100／日　円		その他の経費（月額）	500／日　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200　円	昼食	300　円
	夕食	300　円	おやつ	200　円
	または1日当たり　1,000　円			

（4）利用者の概要（　3　月　10　日現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	6	名	要介護2	2	名
要介護3	1	名	要介護4	0	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	85 歳	最低	82 歳	最高	90 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	財団法人松原病院（歯科を含む）

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院を母体とし、同法人介護保険施設の2階に位置する当該ホームは、明るく風通しも良く、オープンキッチンは利用者と職員が一緒に作業しやすい造りとなっています。利用者が活けた生花や窓際に置かれたたくさんの花が季節を感じさせてくれます。パッチワークやぞうきんの布を地域の方から頂き、出来上がったものを小学校に届けたりバザーに出品 し、利用者はパッチワークづくりや手芸を通じて張り合いや喜びを感じながら生活されています。職員の離職もほとんどなく、職員間でいつも話し合いながら、利用者が活躍できる場を提供し、地域交流会やバザーを開催することで、利用者が地域の中で共に暮らしていける支援を実践されているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の外部評価を受けて、研修時の際の報告を申し送り時に時間をかけて行ない、資料は閲覧する等、情報の共有に努めています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価票は数人の職員の意見を聞き、管理者が取りまとめて作成されています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	上階にある法人グループホームと合同で開催され、家族、地域住民、地域包括支援センター職員、法人職員、ホーム職員等が参加し、開催されています。会議ではホームからの報告を始め、避難訓練の呼びかけや地域交流について話し合われ、さまざまな意見を運営に反映させています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	年に2回家族会を開催し、家族同士で話し合ったり、直接意見を聞く機会を設けています。また意見箱を入口に設置したり、外部の苦情窓口を書面に記載し、家族が苦情や意見を言いやすいように配慮しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入し地域の情報を得て、お祭りや小、中学校の運動会に出かけたり、小学校に利用者の手作りの雑巾を届けています。ホームでは月に一度地域交流会を開き、地域の人々と一緒に手芸や会話を楽しむ機会を設けています。またホームで開催されたバザーでは、回覧板を利用したり各戸にチラシを配ることで多くの地域の来場者が得られ、交流が実現できています。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念をもとに、毎年度職員間で話し合い、その年のホーム独自のテーマと目標を決め、理念としている。地域に出向き、交流を図り、ホームにも来てもらえるることを目的とした理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今年度のホーム独自の理念を法人の理念と共に玄関に掲示している。朝夕の申し送り時やミーティングの際に、理念についての理解を深めるための話し合いを行なっている。また日々の会話の中で、利用者の思いを聞き出し、実現できるように心がけている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、お祭りや小、中学校の運動会に出かけたり、小学校に利用者手作りの雑巾を届けている。ホームでは月に一度地域交流会を開き、地域の人々と一緒に手芸や会話を楽しむ機会を設けている。またホームで開催されたバザーでは、回覧板を利用したり各戸にチラシを配ることで多くの地域の来場者が得られ、交流が実現できている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価後に職員間で話し合い、研修時の報告を申し送り時に行ない、資料は閲覧する等情報の共有に努めている。今年度の自己評価票は何人かの職員の意見を聞き、管理者が取りまとめて作成された。	○	自己評価は全員で取り組むことで、実施した際に最大の効果をもたらすことが出来るため、職員の日頃のケアの振り返りや、自信に繋げるためにも全員での取り組みが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上階にある同法人のグループホームと合同で開催されているため、参加者や双方の都合で延期になることが多く、昨年度は12月に家族、地域住民、地域包括支援センター職員、法人職員、ホーム職員等が参加し、開催されている。会議ではホームからの報告を始め、避難訓練の呼びかけや地域交流について話し合われている。	○	運営推進会議を会議だけに留まることなく、家族会や行事と一緒に開催したり、地域交流の場とする等して、より多くの意見をサービスに反映するためにも、2か月に一度の開催が望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、ホームの広報誌を送ったり、書類提出等について電話等で相談している。また、市主催の研修にも参加している。	○	市担当者に運営推進会議への参加を呼びかけたり市からの様々な情報を得るための働きかけが期待される。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者のホームでの暮らしぶりは、家族の来訪時にケース記録を見せ報告したり、利用者の写真入りの季刊誌を手渡すなどしている。また受診時にはその都度家族に連絡したり、家族にも電話等で確認し情報を共有している。立て替え金は家族の来訪持に領収書を渡しその都度精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を開催し、家族同士で話し合ったり、直接意見を聞く機会を設けている。また意見箱を入口に設置したり、外部の苦情窓口を書面に記載し、家族が苦情や意見を言いやすいように配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者もほとんどなく、職員間のコミュニケーションは取れている。管理者は職員と何でも言い合える関係づくりを心がけ、ホーム外での食事会等でストレス解消を図っている。新しい職員はベテラン職員について日勤から始め、徐々に利用者との馴染みの関係を築いている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や母体病院の年間研修計画の中で必要な研修に参加したり、併設施設の毎月の研修会に順次参加している。参加した研修については報告書を法人に提出したうえで、毎日１時間かけて行っている申し送りの際に他の職員に報告し、資料を閲覧して情報の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム連絡会に加入し、管理者は年に2回の会合に参加し、意見交換や勉強会を行ない交流を図っている。また法人内の他ホームと職員同士の交換研修を行ない、行き来することで他のホームを知る良い機会となっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者にはなるべく利用者や家族に見学に来てもらうように伝え、無理な場合は職員が自宅等に出向き顔を憶えてもらい、生活環境を把握している。入居後は家族の協力を得たり、職員の誘導や声かけで落ち着いてもらう等の工夫をしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から梅酒や梅干し作り、料理など生活の知恵を教えてもらっている。また家族の一員として接するように心がけ、冗談を言い合ったり、慰めてもらったりしながら共に助け合いながら生活している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員を担当制とし、馴染みの職員が日常会話の中から利用者の思いを聞きだすようにしている。聞いた内容はケース記録に記載し、職員間で情報を共有している。センター方式のアセスメントを一部活用している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の希望を聞いた上で、アセスメントに添って当日の出勤者が出席してカンファレンスを開き、話し合い介護計画を作成している。	○	全職員の意見を事前に聞いた上で、カンファレンスを開催し、職員の思いや気づきが介護計画に反映されるような取り組みが望まれる。またモニタリングや評価に繋げるためにも、目標期間を設定されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度カンファレンスを実施し、評価を行なっている。基本的には3か月ごとに見直しされているが、最近職員が見やすいようにフォーマットを変更したため、見直し期間が設定されていない計画も見られる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時のホーム医への通院介助、馴染みの美容院や図書館、パッチワーク展を見学に美術館、ショッピングセンターに嗜好品等の買い物に出かける等個別の外出を支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者、家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医を継続している利用者もいる。緊急時はそれぞれの主治医に連絡し、指示を仰ぎ対応し、協力病院とは24時間連携は取れる体制である。看護師である管理者や併設施設の看護師の協力も得ながら、日ごろの健康管理にあたっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームではターミナルは行わない方針であり、書面にも掲載し家族の同意を得ている。方針については職員とも話し合い確認し合っている。重度化した場合は、家族の希望や主治医の意見を聞きながら、出来るだけ対応していきたいと考えている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を名字で呼び、トイレ誘導等はそばに寄って声かけするよう努めている。法人の接遇研修にも参加し、プライバシーを損ねるような行為を見かけた場合は、管理者が直接注意している。個人のファイルは鍵付きのキャビネットに収納している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者のペースに合わせ職員は声掛けするが、無理強いはしないよう配慮している。また勤務体制の関係もあるが、利用者の希望にはすぐに対応できるように心がけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日冷蔵庫の中身を見て、利用者に希望を聞きながら献立を決めている。利用者と職員は買い物から始まり、下ごしらえ、片付けに至る一連の作業を一緒に行なっている。食事は同じテーブルで同じ物を食べており、共に楽しみな時間となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回入浴日を決め利用者の入浴を支援している。時間は季節によって午前か午後に分け、その時間帯であれば希望の時間に入浴してもらっている。シャワー浴などの希望にはすぐに対応している。	○	毎日の入浴や日中の好きな時間や夜間など、利用者の希望に添った入浴が出来るような体制を検討されてはいかがでしょうか。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は調理や掃除等、それぞれが家事で得意な役割を持ち、梅酒や梅干し、おはぎ作りも職員と一緒に行なっている。毎日の体操やぬり絵、手芸は利用者にとっての楽しみであり、パッチワークは欠かせない日課である。現在は利用者個々にベッドカバーを制作中である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や図書館通い、食材や嗜好品の買い物に出かけている。また百合の花、菊人形、コスモス等の花見に出かけたり、時々は外食に出かけて気分転換を図っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は1階の入り口やホームの玄関すべて施錠することなく、利用者は自由に行動している。3階のグループホームとの行き来もあり、利用者が外に出られる場合は声をかけ、職員が一緒に出かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	上階の法人グループホームと合同で、年に2回消防署立会いのもと、夜間を想定して避難訓練を開催している。運営推進会議でも地域に協力を呼びかけ、次回の訓練では近隣住民の参加も予定されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取量は記録に残している。また体調や状態に応じて、お粥や魚の骨を取るなどして、食べやすい状態で提供している。今後は法人栄養士に依頼し、定期的にチェックを受ける予定である。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は転倒予防も兼ねやわらかいクッションフロアを用い、リビングは大きな窓で明るく、玄関の生花やずらっと並んだ窓際の花が季節を感じさせてくれる。オープンキッチンで利用者も作業しやすく、廊下やリビング隅にソファーやベンチが置かれ思い思いに寛ぐことが出来ている。壁には作品である立派なパッチワークが飾られ、インテリアにもなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスが用意された居室に、ベッド、家具、位牌、家族の写真、鏡など馴染みの品を持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫している。また各自好みののれんをかけ、自室をわかりやすくしたり、煙探知機をつけ災害時に備えている。		